

山東京伝「山東京伝画入書簡」

益御康健御座被遊

恭悦奉存候、然は先日

御令郎様へ御願置候、

虫のたれ衣の図蚊帳の図、

御模被下候は、御めくみ

被下候〔様〕、

奉願候。

板本におなし。

法然上人絵巻

などに如此笠



あり。これはいにしへの

編笠かと存候か、

もし又外に名を

御座候は、御教示奉願候。

○福富の草紙は

室町家の時代の物かと

存候か、さはなく候はゝ、時代
しかとしれをり候はゝ、是又

御教示可被下候。

○石虫たれの衣の図

何の絵巻にありて、時代は

いつれの比と申事 ■^(破損)て、

御めんとうなから御記しをき

可被下候。

○今日御他行に御座候はゝ、

来る廿五日に私参上

可仕候間、それ迄に ■^(破損)仕候

くれゝも御めんどうおそれ入

奉存候。好古之一癖と

御免被遊可被下候。頓首拝

四月六日

醒斎

洞斎先生